

山形市健康プラン2035

未来から描く 一人ひとりがいきいきと元気に暮らすまち
健康医療先進都市 山形

令和7年度～令和17年度



令和7年3月

山形市

はじめに



このたび、山形市の総合的な健康づくりの指針となる、「山形市健康プラン2035」を新たに策定いたしました。「山形市健康プラン2035」は、市民の健康増進の推進に資する施策を基本とし、成育医療等基本方針に基づく計画と歯科口腔保健計画を包含した計画となっています。

本計画では、基本的な策定の考え方として、本市のこれまでの健康づくりの取組に関する検証に加え、新たな取組として、2040年のあるべき姿を達成するためにバックキャスティングによる視点を踏まえた検証を取り入れ、「誰もが健康で生きがいと役割を持って地域の中でいきいきと暮らすまち」、「孤独や孤立を感じることはない思いやりにあふれるまち」を目指すために、様々な角度から分析いたしました。

これらの分析において、第2次山形市健康づくり計画における「SUKSK生活の推進」についても検証を行っており、その結果として、本市における平均寿命と健康寿命はともに延伸し、第1号被保険者における要介護2以上の認定者の割合や、要介護2以上の認定者のうち、三大原因である認知症、運動器疾患、脳血管疾患を原因とした認定者の割合が減少するなど、成果が現れてきたことも明らかとなっております。

こうした動きをさらに加速していくためには、健康寿命を損なう主な疾患となる認知症、運動器疾患、脳血管疾患に加え、悪性腫瘍や心疾患等の予防が重要です。そのため、これまで推進してきた「SUKSK生活」を強化し、糖尿病などの生活習慣病の予防に資する個人の行動と健康状態の改善にアプローチするとともに、新たに、自然に健康になれる環境づくりを取り入れ、健康に関心の薄い人を含め無理なく健康行動をとれる環境整備を推進するなど、社会環境の質の向上を進めてまいります。

さらに、計画の推進にあたっては、健康づくりに関して幼少期から高齢期に至るまでの人の生涯を経時的に捉えた「ライフコースアプローチ」の考え方を取り入れ、女性と子どもの健康増進の取組を進めることで、全ての世代の皆様の健康づくりを支えてまいります。

本計画に基づき、市民の皆様、地域の関係機関・団体の皆様、民間事業者や大学等の皆様とともに、「未来から描く一人ひとりがいきいきと元気に暮らすまち健康医療先進都市山形」を目指してまいりますと考えておりますので、引き続き、御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたり、多くの御意見及び御提案をいただきました山形市健康医療先進都市推進協議会委員の皆様、アンケート調査に御協力いただきました市民の皆様に心から感謝を申し上げます。

令和7(2025)年3月

山形市長 佐藤 孝弘

目 次

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置づけ	1
3 計画期間	2
4 計画策定の考え方	3

第2章 国による「健康日本21」等の基本的な方向を踏まえた検証

1 健康寿命の延伸・健康格差の縮小	4
2 個人の行動と健康状態の改善	4
3 社会環境の質の向上	4
4 ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり	4

第3章 山形市のこれまでの取組に関する検証

1 第2次健康づくり計画（平成25（2013）年度～）	6
2 S U K S K生活の推進（令和元年（2019）年度～）	10
3 シンクタンクによる分析（令和元年（2019）年度～）	13

第4章 バックキャスティングによる視点を踏まえた検証

1 山形市の現状と将来予測	18
2 令和22（2040）年に想定される課題	20
3 令和22（2040）年のあるべき姿	20
4 令和22（2040）年のあるべき姿の実現に向けたビジョン	21

第5章 健康づくりにおける取組

1 山形市における課題と施策の関係性	22
2 施策体系図	23
3 基本施策	
基本施策1 S U K S K生活の推進	24
基本施策2 疾病の早期発見と重症化予防	33
基本施策3 健康寿命の延伸に向けた環境整備	37
基本施策4 ライフコースアプローチを踏まえた女性と子どもの健康増進	41

第6章 推進体制

1 施策を推進するための視点（横ぐし）	47
2 山形市健康医療先進都市推進協議会への報告・進捗管理	48
【参考】ライフステージの区分について	51
【参考】SDGsについて	52

【資料編】

1 山形市の現状	53
2 策定経過	60
3 用語解説	61

（「※」がついた用語についての解説）